

会 議 録（要 旨）

会 議 名	平成29年度第2回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成29年4月27日（木）午後7時～9時30分
開 催 場 所	ボランティア・市民活動センター会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）渡辺龍也、北口良夫、瀬口圭志、高橋誠、比留間多一、 本間由美子、高尾典之、比留間毅浩 欠席者：清野智美、前田啓子 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 会	平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会
そ の 他	平成30年度実施事業募集要項について
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	（平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会） 事業実施団体が事業報告を行い、各委員から事業について質疑応答を行った。 （平成30年度実施事業募集要項について） 委員から指摘のあった事項をそれぞれ反映させ、修正したものを委員に送付して諮る。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめ。） （発信者） ◎印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：市担当課 □印：司会者	平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会 団体名：いつひよファミリー with 石田倫依 事業名：ひろげよう！子育て支援の輪プロジェクト 市担当課：子ども育成課 児童館グループ -実施団体による報告- 質疑応答 ◎ 29年度は市が予算化したのか。 △ そのとおり。29年度は委託事業として実施する予定である。 ◎ それにしては自己評価の点数が低くなっている。 △ 事務局から当初伝えられた評価基準に従って自己評価したためである。 ◎ 当初は何組の参加を想定していたのか。 △ 45組程度である。 ◎ 今後改善していきたい点はあるか。 △ 初参加の人も入りやすい雰囲気づくりを進めたい。 ◎ 以前は考えの相違により担当課と円滑に連携できていないことがあったが、現在は解消されたか。 △ 現在は解消され、円滑な事業実施ができています。 ○ 本事業は主に0歳時から3歳児までの親子を対象にした事業を実施しているが、子どもが3歳以上になっても親が孤立せず、少しずつ地域に溶け込んでいけるようにすることも必要ではないか。

- △ 親子コミュニティ広場に参加した親子同士と一緒に市民活動団体に参加する例が出ており、本事業で形成された人間関係が継続していると感じている。今後は団体にも取り込んでいきたい。
- △ 今後は3歳児以上の子どもを持つ親を対象にした事業をやりたいと考えているが、具体的なことはまだ決まっていない。
- 29年度からは委託事業になることが決まったが、市として本事業の成果をどう考えているか。
- ▲ 児童館は18歳まで利用することができ、幅広い年代の市民に利用していただける施設なのだが、平日の午前中は非常に利用者が少ないのが現状である。そのような中で、本事業の実施により空いた時間を上手く活用することができたのは非常に意義があったと考えており、委託事業として継続するに至ったものである。
- ◎ 実施場所はこれまでと同じか。
- ▲ 29年度は、これまで活動していた残堀・伊奈平地区会館の改修工事が行われるので、他の施設での実施も検討している。
- 法人化の予定はあるのか。
- △ 昨年度NPO法人格を取得した。
- 29年度の活動において、今までと比べてどのような工夫をしようとしているか聞かせていただきたい。
- △ 協働事業では親子コミュニティ広場を15回実施したが、29年度は30回を予定している。参加者により多くの選択肢を与えられるようにしたい。
- ▲ これまでは曜日を決めて実施していたが、今後は特定の曜日だけでなく日曜日の実施なども検討したい。
- 29年度は人件費が高くなっている。
- △ 人員と実施回数の増加による増額である。
- 委託事業として継続することになったのに、担当課の自己評価が低い。
- ▲ 全体的に厳しく自己評価したものであるが、委託事業化に値するだけの評価はしている。
- ◎ 良い成果の出ている事業であり、今後も非常に期待しているが、人員もまだ多くはない中で回数も倍増しており、くれぐれも無理のないように実施していただきたい。

団体名：グラシオスプラントパートナー

事業名：武蔵村山市を花と緑であふれる素敵なまちにして癒しの景観を創る

市担当課：環境課 公園緑地グループ

-実施団体による報告-

質疑応答

- 28年度は商店向けの講習会を実施する予定だったはずだが、実施していない。
- △ 商工会を通して市内商店へ呼びかけようとしたが、商工会員にも花屋があることから、協議の上で実施しないこととした。
- 公共施設への植栽が市民から好評を得ているということは、協働事業終了後も継続して行う必要があると思うが、担当課はどのように考えて

いるのか。

▲ 環境課は市内全体の緑化を推進する部署である。市役所をはじめとする公共施設にはそれぞれ所管課があり、環境課だけで実施することは難しい。総務契約課など、他の部署と調整しながら検討したい。

◎ 本事業の当初の主旨は、広く市民に花育の心を広めることであつたと思うが、公共施設への植栽がメインになってきてしまっている印象がある。委託事業のように公共施設への植栽を続けるだけでは本来の目的から離れてしまうように思う。

△ 市民に花育の心を伝え、市全体に広めたいという思いは変わっていない。今後はグリーンヘルパーとの連携も検討している。

○ 協働事業終了後は別の補助金を収入として計上している。

△ 緑化活動を行う団体を対象とした補助金があるので、活用を検討している。

△ 29年度はかたくりの湯周辺への植栽を予定していたが、施設が休館になるため、緑が丘ふれあいセンター等の他の施設への変更を検討している。問題はないか。

◎ 軽微な予定変更は問題ない。

◎ 現在の会員数は。

△ 20名程度である。28年度に植栽に参加してもらった人に今後正式な会員になってもらえるようにしたい。

◎ グリーンヘルパーとは具体的にどのようなものか。

▲ 平成26年度に実施した、みどりのまちづくり講演会をきっかけに創設されたものであり、「緑化活動のボランティアを行う人」を指導できる立場の人を認定する制度である。知識や技術に応じて1級から3級までのレベルがあり、28年度には7名が1級を取得した。

◎ 武蔵村山市独自の制度か。

▲ 九州地方にある制度だが、武蔵村山市の周辺の自治体では行っていない。

◎ 29年度以降はグリーンヘルパーと連携するのか。

△ グリーンヘルパーと一緒に何かできたらと考えている。

◎ 協働事業終了後のことについて担当課はどう考えているのか。

▲ 市内の公園に花壇を設け、植栽による緑化推進を検討している。整地や花苗の用意を市が行い、植えるのをボランティアに依頼する方法や、花の選定等も含めて委託により任せるといった選択肢もある。手法については今後考えていきたい。

○ 現状・課題の中で、花を上手く育成できないことで景観を保つことができている点を挙げている。これは協働事業で植えた花のことか。

△ 市民が植えた花が上手く保たれていないのが現状であるという意味である。協働事業により植えた花は、長く綺麗に保つことができている。植栽の技術だけでなく、季節に合わせた花の選定など、講習会により市民に伝えていきたい。

その他 平成30年度実施事業募集要項について

○ 対象となる事業の「3年間継続して実施することができる事業」という要件は削除しない方がよい。

◎ 協働型事業の説明に、採択は単年度ごとに行う旨の内容を入れた方がよい。

◎ 団体育成型事業の説明に、協働型事業への発展を視野に入れている事

	<p>業を優先する旨の内容を入れた方が良い。</p> <p>○ フロー図をもう少し見やすいように修正していただきたい。</p> <p>● 委員から指摘のあった事項をそれぞれ反映させ、修正したものを委員に送付して諮る。</p>
--	--

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開</p> <p><input type="checkbox"/> 一部公開</p> <p><input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="font-size: 2em;">[</p>	<p>傍聴者： _____ 人</p>
-------------------------	--	---------------------

<p>会議録の開示・ 非開示の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 開示</p> <p><input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： _____）</p> <p><input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等： _____）</p>
--------------------------	--

<p>庶務担当課</p>	<p>協働推進部 協働推進課 （内線： 242 ）</p>
--------------	-------------------------------

（日本工業規格A列4番）